

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2017年12月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第590号

今年もクリスマスを迎える季節となりました。2017年も社会の大きなうねりに抗えず、将来に対する言いようのない不安と恐れが覆いかぶさってくるような日々であったように思われます。クリスマスを想う時、いつも心をよぎる聖書の箇所があります。

「ラマで声が聞こえた。激しく嘆き悲しむ声だ。ラケルは子供たちのことで泣き、慰めてもらおうともしない、子供たちがもういないから。」
(マタイ2:18)

神は私たちのどんな悲しみも癒し、慰めて下さると約束して下さっているのに「慰めを必要としない悲しみ」とは何なのだろう? 若い頃そのような疑問がありました。やがて私にも息子が生まれ、新しい命を与えられた喜びを感じつつ、この個所にふれた折何の罪もない幼い子どもが突然権力によって虐殺されたらと想像した時に初めてそのことの意味がわかったように思いました。

そして、その悲しみは二千年前から現代まで連綿と続いています。

今、世界のどこかで戦争があり、かけがえのない命が奪われ、多くの人が傷ついています。紛争の種もつきません。憎しみはさらなる憎しみを生み、その連鎖はとどまることはありません。日本は海外で武力行使できる国になり、憲法改正さらに緊急事態条項にまで手がつけられようとしています。3・11以来、今も甚大な被害を垂れ流し続けてい

る必要のない原発はゼロになるどころか次々と再稼働が進められています。強いものが肥え太り、弱いものを叩き搾取る。そして7人に1人の子どもが相対的貧困状態にあるという現実があります。危機意識を煽って私達をコントロールしようとする邪悪な為政者たち、若い世代にそして将来生まれ来る子ども達に平和な日々を平安な生活を手渡

インマヌエル、神はわれらと共に



関東活動センター運営委員
平井祐美子

せるのか、そんな問いに対して自分自身の弱さと連帯しない怠慢と愚かさを見せつけられ、私の中のどうしようもない闇によって押し潰されそうになるのです。

キリストのご生涯を思います。侮蔑の目を向けられながらの旅の途中、体を休める宿もなく、ひっそりと出産した若い母マリアと父ヨセフを思

います。エルサレムから見下されたガリラヤの地で成長し、貧しい人々と暮らし宣教の果て十字架につけられて無惨に処刑されてしまうのです。そのひとり子を賜ってくださった神ご自身が「慰めを必要としない悲しみ」を身に負われ、悲しむものに寄り添って下さった。そしてその苦しみは、暗闇の中で自分の罪にも気づかずにいる人の世に、この私に、復活という出

来事を通して光を与えて下さるためのものだったということとをあらためて告白しなくてはなりません。

「この方に命があった。この命は人の光であった。光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。」
(ヨハネによる福音書1章4〜5)

今、見えている世界は恐れと不安に満ちているかも知れない、しかし私達に落胆している時間はないのです。見たり想像したりできる「期待」ではなく、見えないけれども神が思いもつかない形で、必ず与えてくださる「希望」に生きることが許されていることに気づかされたこと、今年もまた大きな喜びを共に分かち合うことの幸いを感謝いたします。

「わたしたちは見えるものにはなく、見えないもの目に注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」

新約聖書 コリントの信徒への手紙Ⅱ 4章18節
(日本キリスト教団巣鴨とさわ教会会員)

関東活動センター

●聖書を読む講座―〈新しい聖書の学び〉

「いのちをかけてのメッセーj」
『イエスの譬え話』に聴く(全10回)

日本フェミニスト神学・宣
教センター共同ディレクター 山口 里子さん
2017年4月〜2018年2月(8月除く)第2火曜
会場：早稲田奉仕園スコットホール
共催：早稲田奉仕園

聖書講座を受講して

山田 清

定年の年齢になって高まった聖書にあるイエスの言葉を学び理解したいという思いは、教会では解決しそうもありませんでした。そこで、山口里子さんの講座に出会い感動しました。この講座にはさまざまな思想や考えを持ったひとたちが集まっています。牧師さんも何人もおられ



るし、プロテスタントからカトリック、ノンクリスチャンも参加されています。そんな中で「聖書を、イエスのことばを理解したい」という思いは一致しています。この講座の進め方は、先生による一方的な講義はほとんどありません。1回の講座のテーマが決まっています、テキストを参照しながら、わからない点や疑問に思う点について質問したりディスカッションしたりしながら理解を深めていきます。この譬え話はどのような状況で誰に向かって話されたのか。話に出てくることばの当時のひとの受け取った意味は何なのか。イエスはどのような思いでこれを語ったのか。なにが言いたかったのか。

これらに参加者が思いおもいに発言します。何を発言しても非難されることはありません。発言に対する同意や別の意見が出るなかで、私は、イエスの思いや、生きているイエスを身近に感じることができそうです。クラス全体でのこのような学びとともに、グループに分かれて少人数でさらに自由に話し合いを行うかたちは、私にとって聖書に親しみ、自分の理解を深めるよろこびをもたらししてくれるとてもよい時間だと思っています。

講座を受けて

笹田愛子

山口里子さんの著書を知ったのは、フェミニスト神学の会、1泊研修会でのテキスト『いのちの糧の分かち合い』でした。

閉塞した教会の中で息苦しさを感ず、希望を見失って暗い気持ちでいた時に、「いのちの糧の分かち合い」―いま教会の原点から学ぶ―に出会いました。こんなに深く聖書の解釈をする人がいることに、胸が熱くなりました。一体この人はどんな方なの

か、ほかに著書は、と探していた矢先、2015年に開講された日本クリスチャンアカデミーでの本講座のチラシを見つけ、迷わず受講申込みをしました。

今年度のテキストは、いのちをかけてのメッセーj『イエスの譬え話2』に聴く、です。このテキストには8つの譬え話を取り上げられています。

予め、テキストを読んでいくのですが、イエス様が命を懸けて話した譬え話の、踏み込んだ講義で、新しい気づきに思いが広がります。

講師が繰り返し口にされる言葉、「思い巡らす」がなかなか難しく、問題点を見出すことすらおぼつかないのですが、新しく学び直すことに新鮮な喜びを感じています。



活発に発言する他の受講生に気後れしながら、「思い巡らす」想像力のなさを痛感し辛いのですが、なぜか受講を終えた後、気持ちは軽く、解放された気分になされるのです。

主のご降誕を
お祝い申し上げます。



関西セミナーハウス活動センター

●2017年度「開発教育セミナー」第4回
「日本は『死の商人』になるのか?」
「軍事と民生の境界線」

講師・武器輸出反対ネットワーク代表 杉原 浩司さん
2017年10月14日(土)〜15日(日)



講師に武器輸出反対ネットワークの杉原浩司さんを迎え、セッション1では、武器ビジネスの現状を学習した。現在紛争当事国には武器禁輸となっているが、それはたった11カ国でシリア、イスラエルは入っていないという。防衛省は安全保障技術研究推進制度を拡充させているが、日本学術会議の軍事目的の研究拒否の声明は効果的で、企業のレピュテーションリスク、すなわち武器商人と呼ばれたくないという感覚が残っているのが救いという。日本最大

の軍事企業の三菱重工でも、軍需依存度は11・6%。まだ間に合うというのが杉原さんのメッセージだった。セッション2では、日本を『戦争のできる国』へと変容させる政策について学び、杉原さんは、その一例として朝鮮半島危機が意図的に煽られており、防衛費は過去最高に膨張したと述べた。アメリカでは、非核化ではなく朝鮮戦争の休戦協定と平和協定を締結することから始めるという米朝交渉が提案されているという。日本が外交努力を放棄してはならないと考える。セッション3では、武器輸出三原則を復活させ武器貿易条約を強化すること、日本の軍需産業関連企業にハガキを送って抗議することなどのアイデアをもらった。ここ数年で、日本はアメリカの補完勢力として

世界のどこでも戦争ができる国へと舵を切っているが、学校で平和主義を学ぶことの大切さを改めて認識した。

●2017年度 修学院フォーラム「社会」第2回
宗教と戦争を考える(4)
「内村鑑三の戦争観」

関西学院大学神学部教授 岩野 祐介さん
2017年11月11日(土)



内村鑑三という非戦論で有名だが、その内容について詳しく知ることのできた時間だった。講演は高橋哲哉氏の批判、内村は他者の死を美化し、犠牲として称えるべきでないとの論への応答からはじまった。「非戦論者の死」において内村は非戦者の戦死という逆説によって戦争の終結を図るべきだと述べるが、岩野氏は他の資料を用いて丁寧に考察し、総合的に捉える必要があること、また決して美化しているわけではなく、むしろ遺族への慰問の意図がつよく、曲解されているという。

さらに兵役拒否にたいしては兵役に服するよう説いたというが、しかし兵士として殺人を犯すことを避けるように求めたという。実は一貫した非戦主義ではなく、また反戦主義でもないのだが、内村は殺人を避けるよう求め、積極的

なものとして平和を説いた。はなしあいの時間では、内村の弟子についても話が展開し、斎藤宗次郎、藤井武、矢内原忠雄など太平洋戦争を経験することになった人びとの戦争観にまで話が及んだ。とくに兵役に服したが、捕虜を銃で殺害するという実習においてこれを拒否し銃を置いた弟子が、その結果拷問をうけつつも銃をとることなく戦後をむかえた話は興味深いものがあつた。今回は浜松や三重など無教会に出席する方も数名参加され、活発に意見をくだされた。

●協力プログラム
金属労協
第49回労働リーダーシップコース

主催・全日本金属産業労働組合協議会(JCM)
2017年10月12日(木)〜28日(土)

労働組合の中堅組合員を対象に全人格的教育を行う金属労協労働リーダーシップコースが、2週半にわたり開催された。北関東から広島までの女性3名を含む35名が参加した。「時代の求める労働組合の役割」をテーマにゼミ

と多彩な講義の傍ら、問題意識を共有しながら討論を重ねて学びあつた。また、座禅や茶室訪問、鞍馬山散策、交流会などを通して、企業、産別を越えて親交を深めた。特別講演には、(株)堀場製作所代表取締役会長兼社長 堀場厚氏が招かれた。

プログラム案内

◆関東活動センター

■聖書を読む講座I

「いのちをかけたのメッセージ『イエスの譬え話』に聴く」(全10回)

講師：山口 里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：2017年4月～2018年2月(8月除く)
第2火曜 18:30～20:00
◎2018年1月9日◎2月13日

会場：早稲田奉仕園スコットホール
参加費：1,200円/学生500円

テキスト：『イエスの譬え話2』
新教出版社
共催：早稲田奉仕園

■2017年度関東フォーラム 宗教対話III

「編集者がその本音を語る」

第3回「根田祥一さんに聞く一編集者として福音派諸教会の歩みを実見して」

講師：根田 祥一さん(元クリスチャン新聞「百万人の福音」編集者、現在のいのちのこことば社出版部編集長)

日時：2018年2月16日(金)
18:30～20:30
会場：カフェ・エクレシア(台東区蔵前2-7-6 電 03-3863-2338)

参加費：1,500円(ワンドリンク付)

◆関西セミナーハウス

■月釜 清心会

日時：2018年2月11日(日)
9:00～15:00受付(1,8月を除く年10回)

於：関西セミナーハウス
年会費：5,000円、臨時会費1,000円

財団本部 http://www.academy-nippon.com
関東活動センター http://www.academy-tokyo.com
関西セミナーハウス
http://www.kansai-seminarhouse.com/
関西セミナーハウス活動センター
http://www.academy-kansai.org

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 小久保 正
本部事務局
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館1F
TEL 03-3207-6198
E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/
関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス
TEL 075-711-2115
E-mail:info@kansai-seminarhouse.com
関西セミナーハウス活動センター
TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org

◆関西セミナーハウス活動センター

■2017年度修学院フォーラム「社会」

第4回(第6回エネルギーを考える)
「原発との共存は可能か?～フクシマからの問い～」

講師：大島 堅一さん(龍谷大学政策学部教授)
島園 進さん(上智大学神学部教授・グリーンケア研究所所長)

日時：2018年1月7日(日)16:00～8日(月・祝)16:00

会場：関西セミナーハウス
参加費：14,000円/学生5,000円(泊3食込)

第5回「キリスト教徒は激動する国際情勢をどう見るかー米朝関係を中心に」

講師：佐藤 優さん(作家・元外務省主任分析官)

日時：2018年2月17日(土)
13:30～17:30

会場：関西セミナーハウス
参加費：3,000円 学生500円(コーヒー込)

■2017年度修学院フォーラム「いのち」

第1回「老いの日をいかに生き、支えるか 第1回」

講師：奈倉 道隆さん(介護福祉士、老年科医師)

大橋 紀恵さん(法燈山安明寺坊守、看護師、保健師)
日時：2018年2月3日(土) 13:30～16:30 電 711-2117

会場：関西セミナーハウス
参加費：1,000円(コーヒー込)

■2017年度修学院フォーラム「福祉」

第2回「児童虐待防止のために私たちができること～最前線の実情を通して考える～」

講師：津崎 哲郎さん(NPO法人児童虐待防止協会理事長、関西大学客員教授)

日時：2018年2月10日(土)
13:30～17:30

会場：京都YWCA(京都市上京区室町通水上1ル)

参加費：一般1,000円、学生500円(茶菓付き)

共催：京都YWCA

<訂正>
10、11月号本欄掲載の「開発教育セミナー」第6回の講師のお名前表記に誤りがありました。お詫び申し上げますとともに下記の通り訂正いたします。
<誤> 小杉麻季亜さん
<正> 小杉麻季亜さん

贊助会費・寄付金報告
2017年10月1日～10月31日
(順不同・敬称略)
◆関東活動センター
贊助会費
吉田 博 5,000
寄付金
高柳 允子 1,000
神学生交流プログラム寄付金
荒井 献 5,000
宮本 旻祐 5,000
並木 浩一 5,000
松原 千里 3,000
大橋 祐治 3,000
吉田 博 5,000
関田 寛雄 10,000
早稲田奉仕園 10,000
大澤 秀夫 2,000
桃井 明男 5,000
島田 恒 10,000
◆関西セミナーハウス
寄付金
武藤 高司 10,000
ジ・エアーズ 菅原 直人 10,000
◆関西セミナーハウス活動センター
贊助会費
南 和子 10,000
八杉 恵 5,000
寄付金
土井 健司 20,000
和田野 勢津子 5,000
東 千代 1,000
シュベネマン クラウス 40,000
山本 良昭 10,000
安野 優美 11,000
南 和子 1,000
君村 千代子 1,000
佐々木 紘児 1,000
廣瀬 芳之 11,000
藤本 和子 1,000
上田 圭子 10,000
金子 博・町子 10,000
櫻本 栄次 200,000
君村 昌 100,000
脇坂 照世 5,000
藤田 敦子 5,000
黒井 久代 10,000
林 榮子 10,000
春名 康範 100,000
もみじまつり寄付金
中村 信博 5,000
八村 一郎 3,000
竹中 百合子 3,000
八田 尚嘉 5,000
ひいらぎ税理士法人 20,000
林 宗一郎 10,000
奈倉 道隆 3,000
安住 宗住 7,000
(株)柴橋商会京都支店 10,000
白子 宗令 10,000
浅田 涼子 5,000
有岡 雅行 5,000
開発教育セミナー寄付金
金山 顕子 3,650
以上、感謝をもってご報告申し上げます。